# ‘ὁ κόσμος, ἀλλοίωσις· ὁ βίος, ὑπόληψις.’

3号 1989.11.4
文・編集・発行
恋怪子

## Q&A：ロックン・ロールは有効か？

「生きないうちに死んでゆく。なにひとつ目標もないし展望もない。ただただ過ぎてゆく時間と通り過ぎてゆく人たち。私は、一人つったったまま老いてゆく細胞の集積。かけがえのないものなんかなにもない。私は誰一人にとってもかけがえのない人間じゃない。誰ともつながっていない」「毎日毎日だんだん生きている実感がうすれていっているような気がする。このままこういう状態が続いていって、すうっと霧がはれるのといっしょに消えていくような感じ。うれしいことも悲しいこともない。あるのは、はれない霧のような不安。死が想われてならない。この世に私をつなぎとめていると思ったものがひとつ、ひとつ、ふうっと輝きを失なってゆく」 去年の夏のノートから。

生きていること、自らの力で立っていること、それを投げ出さずに生きつづけていくのは、私にとっては大変なことである。年を追うごとに苦しさが深くなっていく。苦しい出来事があるからではなくて、死ぬまで生きつづけるのが苦しいのである。心の暗いトンネルは、それを通りぬけたときに、トンネルの中にいたことがわかる。中にいるときは暗さしかわからない。いつ入ったのかわからないうちに私は暗いトンネルの中にいた。去年の夏。暗さが底知れず深くなっていった。そんな毎日のなかで、たしかな明りを感じたことがあった。1988年8月27日横浜7thアベニューのSHADY DOLLSのライブで。女の子たちがぎっしり入っていてうしろの方にいた私にはほとんどステージが見えない。SHADY DOLLSを知ったばかりでレコードもまだきいていなかったから歌詞もききとれないところばかり。それでも届くものは届く。鏡の枠にうつっているモジャモジャ頭の、FOUR ROSES BOURBONの白い長そでTシャツを着た郁史にときどき目をやりながら、歌にききいっていた。※「終らないLOVE SONG」で郁史は歌った。※「さびしがりやに歌ってやる」「愛のない二人より夢のある一人の方がいい」。これをきいて私は涙があふれてとまらず、両手で顔をおおった。死にたい、死にたいと想っていた想いが涙といっしょに流れ去って、あとはすこし虚脱したようになった。そして、生きよう、と思った。これでトンネルを出られたわけではなく、このあとも長いこと行きつもどりつしていたのだが、なんとかトンネルを出ることができて、現在、在る。I君、「ロックン・ロールは有効じゃなかったんですか？」というあなたの問いに対して、これで答えになっていますか？

※レコードでは「さびしがりやに歌ってくれ」となっている。あの日「歌ってやる」と歌ってくれて、ありがたかった。

## LIVE：横関敦 1989.11.2 パワーステーション

この日、日本中でいくつライブがあったのだろうか。そのなかでパワーステーションの横関敦のライブがいちばんすごくて、上等で、すてきなライブだったと思う。ギターは、鳴りひびくと同時に歌っていた。ステージの上の5人の巨人たち（ギター：横関敦、ピアノ：三柴江戸蔵、ベース：関雅夫、ドラム：そうる透、キーボード：佐藤たつや）はみんなカッコよかった!! アルバム「DINOSAUR」もおすすめ。

12/17、1/23 パワーステーションでライブ。必見!!!

## LIVE：RIP VAN WINK 1989.10.19 渋谷ラ・ママ

はじめからおわりまで演奏はちゃんときこえていたのだが曲の世界が感じとれなかったし、心に風景がうかんでくることもなかった。からだがリズムにのることもなかった。「今日のライブはこの一曲！」という印象もない。歌、ギター、ベース、ドラムのそれぞれの音はからみ合って層になっているのに。曲を演奏すること、歌をうたうことメンタルのものがステージに入りこんでいるようだった。何回もライブをこなして、演奏が手なれてきて曲の世界がうすくなってきているのかもしれない。「SUNSHINE IN MY HEART」という曲がでてくるほどにRIP VAN WINKの世界はひろがってきているのだから、深まりもついていくようになってほしい。ライブというのは、いつものように歌い、いつものように演奏するのだろうけれど、かわるものがあったり、逃げていくものがあったりする。たぶん「いつものように」というものは存在しないのだろう。ただ「その一瞬」だけしか存在しないのだろう。

11/6ラママ
12/2屋根裏でライブ。

## 10月の!!!ライブ

11/2インクスティックでライブ。

THE WELLS 11/2パワーステーション。DOOM 10/7 EXPLOSION 狂育委員会 10/14 福生UZU。THE BLUES BROTHERS BAND 10/17 渋谷公会堂。OAK、BLUE-ROSE、BURSTHEAD、ボルティジ以上 原宿歩行者天国。狂育委員会は要チェック!!

## LIVE：THE STREET BEATS 1989.10.27 インクスティック芝浦

以前にTHE STREET BEATSのライブの感想でこう書いたことがある。（付録参照）「SEIZIのあの不思議なギター。沈黙のギターとでもいえそうな、自らをなにも語ろうとしないギター」「ØKIとSEIZIが結託して、大切に秘密をまもっている」と。けれどもこの日のライブでは、SEIZIのギターは実に雄弁に自らを語っていた。いままではいつも影のような幽霊のような感じがしていたのに、大きくすっくと立ちあがってこちらに迫ってきた。そして「ØKIと結託」しているのではなくて「ØKIと対決」していた。その変化に私は目を見はり、SEIZIに目が釘づけになった。ØKIの歌、歌詞、ほとんど覚えているはずなのに、もやがかかっているようでききとりにくかった。ステージがはじまって3曲目くらいまでは鳥肌が逆立つ感じだったのにØKIのパワーが届いてこなくなった。「満足できない、いまのすべてに」と歌うØKIに、私は心の中で問いかける。「満足できない、いまのすべてに、ってほんとう？満足しているところもあるんじゃない？」と。いままでのライブではいつもØKIからは歌にこめられたものしか感じられなかったのに、この日のライブでは歌にこめられていないものも感じられた。もどかしかった。新しい曲「サンクチュアリー」もSEIZIのエッジのたったギターと、自らを歌いこめているコーラスの方がパワーがあった。爆発寸前のパワー。ところがアンコールの「BEATNIK ROCKER」のとき途中でトラブルですこしの間ギターの音が出なくなった。そのことで腹を立てた（のだと思う）ØKIにパワーが満ちてきた。一気にテンションがあがって、こんどはØKIに釘づけになった。そして、「星降る夜に」。心にズキズキつきささってきた。もう一回アンコール。「空から爆弾気をつけろ」「I WAS BORN IN HIROSHIMA」。パワフルで楽しかった。

## LIVE&TAPE：ティラノザウルス 1989.10.16 渋谷ラ・ママ テープ2曲入りと3曲入り

ティラノザウルスの「Cock-sucker Blues」という曲に「エキセントリック、エレクトリック、ナルシスティック、イッツ ロックン・ロール」というところがある。そう！私がいちばんひきつけられているティラノザウルスを表現しているフレーズである。

「エキセントリック、エレクトリック、ナルシスティック、イッツ ロックン・ロール」

エキセントリック。まさに！歌から感じとれる、ことばの異形、異相。ねじくれた世界。エレクトリック。まさに！アコースティックな音なんかいらない。あのギンギンにエレクトリックなギターが断然いい。ナルシスティック。まさに、まさに！ティラノザウルスをきくと、思考とか論理とかをぶっちぎって、ひとりだけのナルシスティックな幻想のなかに陥ちる。そして、イッツ ロックン・ロール!!

ねじくれたことばがロックン・ロールにのっかって圧倒的なギターと共に私を幻想のなかに陥とす。ことばが失くなる。肉体が失くなる。心の全部がのっとられてしまう。幻想は現実生活を色あせたものにする。私は色あせた現実生活に幻滅する。けれどもそれはいやなことではない。幻滅のむこうに幻の世界が見えるから。ティラノザウルスは、私の現実生活をも幻想にしてしまうのだ。

スペースがなくてギターの、だけ

11/10ラママ
12/2ラママ（ワンマン）

11/5～18広島、大阪にでかける。ついでに、というより日とりでライブに、横関敦を広島で見るつもり。で、4日はその方に日ごとを予定しています。

## CD：THE GEORGIA SATELLITES

ジョージア・サテライツ3枚目のアルバム「IN THE LAND OF SALVATION AND SIN」

ジャケットもしゃれているだけ中味もしゃれている。なかなかきごたえのあるアルバム。

その他にJOE SATRIANIの「FLYING IN A BLUE DREAM」、CIRCUS OF POWERの「STILL ALIVE」もおすすめ。すごいよ。